

中国留学記

～日本人留学生の視点から考える、中国の理解の仕方と

これからの日中関係～

湯浅 真澄

I. はじめに

2017年9月から2018年8月の11か月間、埼玉親善大使として山西大学に留学させていただきました。私は「埼玉県の皆さんに中国のありのままを知ってもらう」という目的を設け、毎月レポートを書いてきました。今月は最終レポートなので、1年間のまとめとして、上記のテーマでお伝えしたいと思います。1年間中国の社会に身を置き、文化に触れ、中国という国を理解しようとしてきました。日本の隣国であり、歴史的に関係の深い中国ですが、よく分からない、という日本人がほとんどだと思います。1年間中国で生活する中で、長期滞在したからこそ感じたことや、核心を突くようなエピソードを交えながら、中国をどう理解すべきかということと、中国との関わり方がどうあるべきかについて書こうと思います。

II. 中国を理解する

(1) 多様性の中国

一口に「中国」といっても、人口は世界ナンバーワンの13億人。日本のおよそ10倍です。また、中国には国民の92%を占める漢民族以外に、55の少数民族がいます。中国語には北京語、広州語、上海語などの方言がありますが、それぞれ別言語といいほど異なっています。方言同士では会話が成り立たないほどです。以前、太原市内に実家がある中国人の友達の家で、他の地方出身の中国人の友人と一緒に招待されたことがあります。彼女の両親とおじいさんがもてなしてくれたのですが、中国人の友人たちでさえ、彼らが何を話しているか分からない、と言っていました。もちろん私は全然聞き取ることができませんでした。

また、都市と地方でも差があります。中国では、都市に生まれるか、地方に

生まれるかでスタートラインが違う、と言っても過言ではないです。中国には「都市戸籍」と「農民戸籍」の二種類の戸籍があります。農村から都市への引っ越しは厳しく制限されており、自分の意思でそれはできるものではありません。戸籍によって受けられる社会保障も異なり、農民戸籍の社会保障は都市戸籍ほど充実していません。都市に出稼ぎに行くなどして都市に行くと、保証自体受けることもできません。大学入試や就職の際も農民戸籍は足かせになります¹。貧富の差も大きいです。近年富裕層の間では、高校生のうちから子供を海外留学に行かせる家庭も少なくありません。留学生枠として中国の難関有名大学に入学させるという人もおり、「努力は必ず報われる」は中国では必ずしも通用しない、ということが分かります。

国土は広くて多民族、農村と都市の格差、貧富の差も大きい中国は、一般的な日本人には想像がつかないほどの多様性があります。ですから、一口に「中国人」と括ることで、中国の本当の姿が見えづらくなってしまいう危険性があります。

(2) 中国は自由か不自由か

中国語のネット用語で、「翻墙（ファンチアン）」という言葉があります。これは、普通に使うと、漢字のまま「壁を超える」という意味なのですが、もう一つ意味があります。それは、「中国政府のネット規制をかいくぐって、外国のネットワークにつなぐ」という意味です。なぜなら、中国は政府のネット規制が非常に厳しく、中国国民は容易に海外ネットワークにアクセスできないからです。中国では、Facebook、Google、Twitter、Line のいずれも使うことができません。国際 NGO 団体の Freedom House が 2017 年に発表した、「世界ネット自由度ランキング」では、中国が最下位に選ばれています²。

¹ 東洋経済 ONLINE 『中国人が逃げられない、「戸籍格差」の現実 これが「努力しても報われない」の実態だ』 <<https://toyokeizai.net/articles/-/70555?page=3>> アクセス日：2018年9月1日。

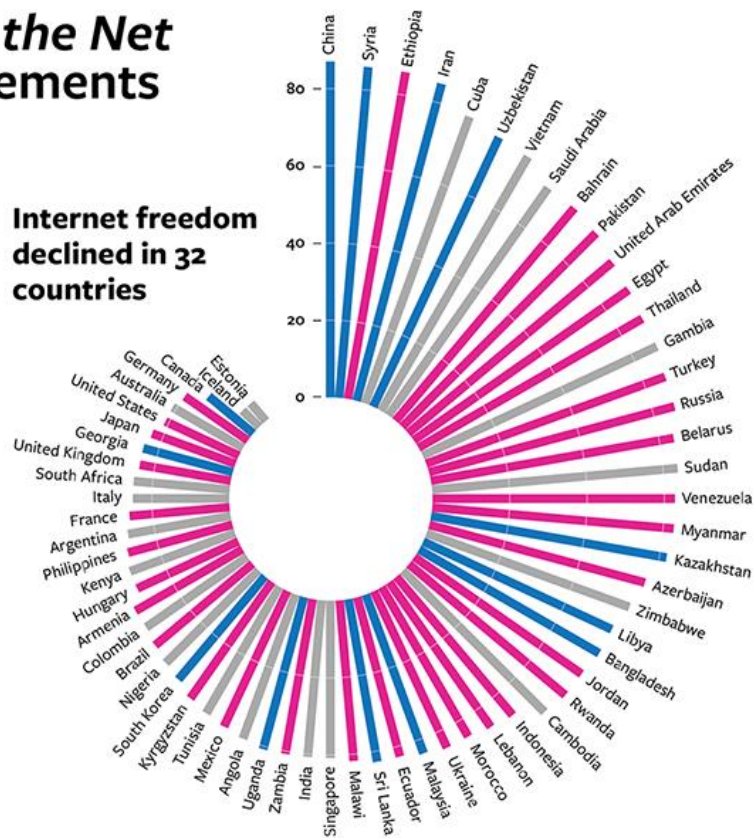
² Freedom House 『Freedom on the Net 2017 Manipulating Social Media to Undermine Democracy』 <<https://freedomhouse.org/report/freedom-net/freedom-net-2017>> アクセス日：2018年9月1日。

図1 ネットの自由 2017 進歩と退歩

Freedom on the Net 2017 Improvements & Declines

- Score Declined
- Score Improved
- No Change in Score

Internet freedom
declined in 32
countries



www.freedomofthenet.org

(出典) Freedom House 『Freedom on the Net 2017 Manipulating Social Media to Undermine Democracy』
<https://freedomhouse.org/report/freedom-net/freedom-net-2017> > アクセス日 : 2018年9月1日。

日本語学科の友人が言っていた、「日本語の勉強をしているから、日本のことをもっと知りたいのに、日本のネットワークにつなげなくて、悲しい。」それから別の友人が言っていた、「中国でも、Facebook が使えたらいいのに。もしできたら、世界中に友達ができるのに」という言葉が、印象深かったです。

一方で、中国はネットが閉鎖的であるからこそ、世界的シェアのあるこれらのサービスに対抗できる、独自のサービスが存在します。例えば、中国版 Google の「百度」(バイドゥ)」、Twitter の「微博 (ウェイボー)」、中国版 LINE の「微信 (ウェイシン)」、中国版アマゾンの「淘宝 (タオバオ)」などの検索エンジンや SNS、オンラインショッピングなどが独自に発達しています。



百度一下

我的关注 推荐 导航

以下信息根据您的兴趣推荐

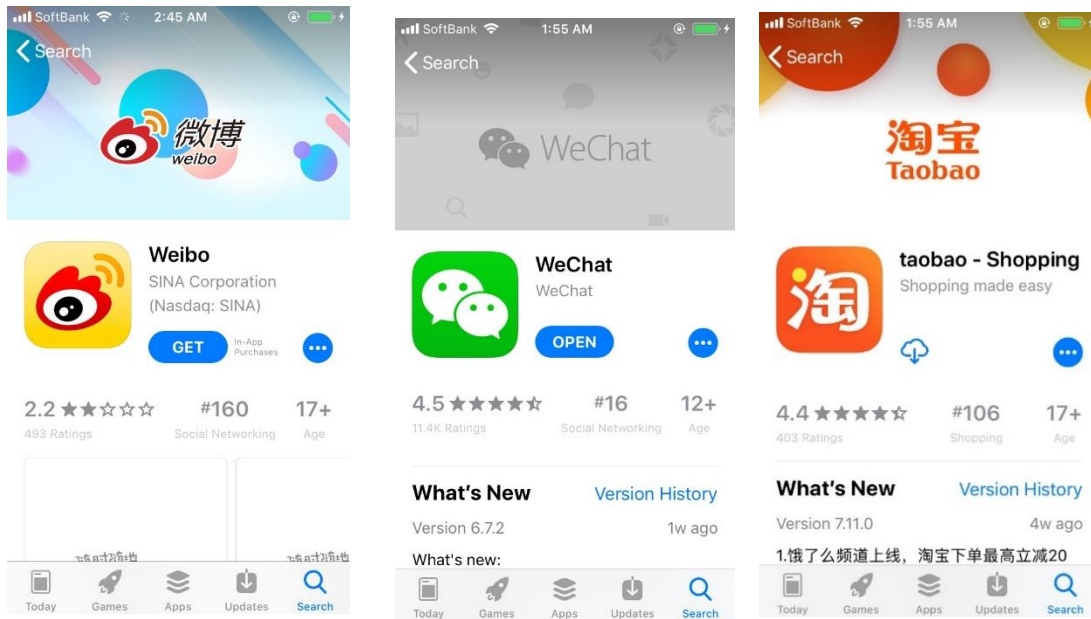
37岁的“富察皇后”高清镜头下的白月光肌依旧能打

网易新闻 08-30 00:01 热点

实时热点 换一换

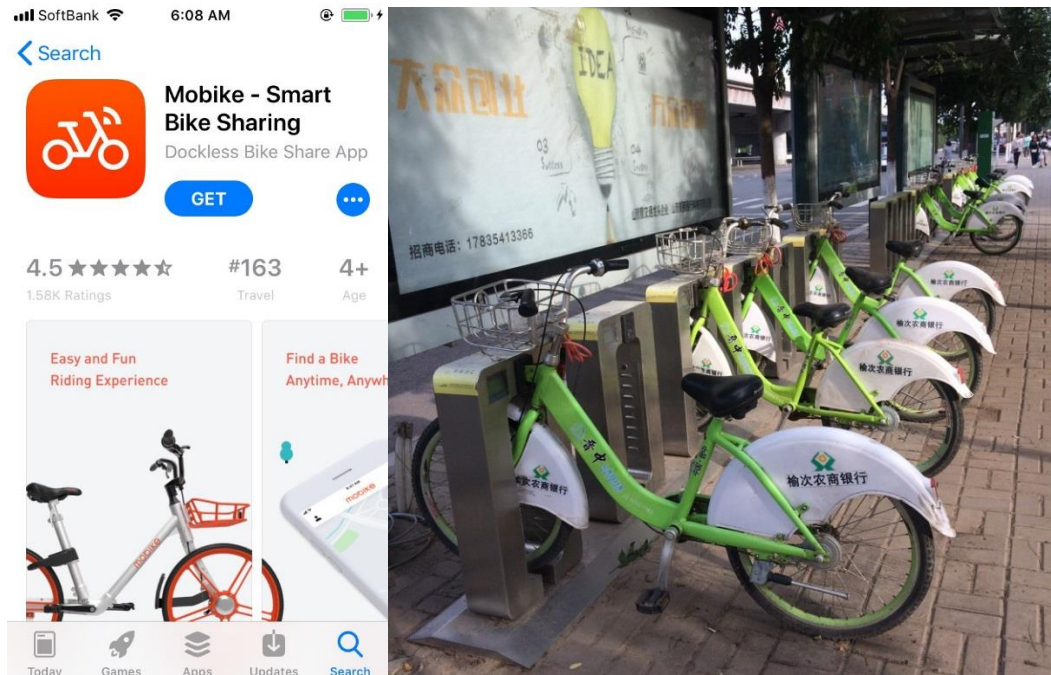
- 孙安佐认罪
- 如懿传周迅演技
- 百胜中国拒绝收购
- 山东救灾资金4亿
- 警方悬赏30万
- 亚运会LOL决赛
- 滴滴司机威胁乘客
- 张丹峰工作室公告
- 男童遭老师背摔
- 中弘碰瓷加多宝
- 男子200米决赛
- 火箭弹获大突破

「百度」(バイドゥ)。中国語で「ググる」にあたるのが、「百度一下」(ちょっと百度)。



左から「微博（ウェイボー）」、「微信（ウェイシン）」、「淘宝（タオバオ）」。

また、以前のレポートでも紹介したのですが、中国ではスマホ決済が一般的になり、シェアライド（デポジットを払えば公共の自転車を借りられるサービス）も発達しています。



シェアライドアプリと、シェアライド。

このように、ネットの普及と発達により、人々はかなり高いネット水準で生活していることが分かります。中国で実際に生活してみると、生活はとても便利です。「中国人はもうスマホなしでは生きられないんだ。俺は、人々が四六時中スマートフォンを見ているのにうんざりするよ。」と言っていた黒タクシー運転手を覚えています。しかし、皮肉なことに、この黒タクシーはタクシー配車アプリ「滴滴」(ディーディー)によって動いており、支払いもスマホ決済がほとんどなのです。

その一方で、政府のネット規制は依然として厳しく、人々は満足に情報を得られない、という現実があります。

私の中国人の友人のエピソードです。彼は、国際社会や経済に強い関心を持っており、自分で本を読んだりして、知見を深めているそうです。彼は、あるエピソードを話してくれました。彼は歴史に興味があり、勉強しているうちに、「天安門事件」というワードにたどりつきました。彼はこの事件についてとても知りたくて、社会科の先生に、「天安門事件って何ですか」と聞きました。しかし、先生は「早く帰りなさい」などと言って、取り合ってくれませんでした。それでも彼はあきらめきれず、彼のお父さんに尋ねました。何度も尋ねる彼に折れて、父はようやくこの事件について彼に話してくれたそうです。70年代に中国で起きた民主化を求める大規模なデモ、「天安門事件」は、中国では教科書にもネット上にも載っていません。政府はこの事件があったことを隠し続けています。

「知らぬが仏」ということわざがありますが、中国人はまさにこれに当てはまるのではないのでしょうか。中国の外の世界を知らずにいれば、生活に支障を感じることもないでしょうが、自分たちが置かれている状況を知ってしまうと、中国社会で生きていくことは決して楽ではないと思います。ネットの発達で、何不自由なく生きていると思っている中国の人々ですが、それは「寝た子を起こすな」という中国政府の政策に乗せられた人々でもあると言えます。

(3) 日本の物差しで測れない中国

「中国人って、マナーが悪そう」というのは、日本でよく聞かれます。日本に観光に来る中国人のマナーの悪さも、たびたびテレビなどで報道されています。

こんな光景に遭遇したことがあります。私が高铁（ガオティエ）に乗るためにチケット売り場に並ぼうとしていると、前の方に横入りしてくる中国人がいました。しかも、何分に一回のペースでそういう中国人がいるのです。「あと〇分でお出発なんだ。急いでいるから、入れてくれないか。申し訳ない」と言って横入りする人も多いです。そこで横入りされる人はどういう反応をするかというところ、「ああ、いいよ」で済んでしまうのです。日本だと、「列は並ばなければいけない、横入りはいけない」というルールがあり、それを全員が守ることが重要視されていると思います。しかし、中国では、ルールを守ることよりも、個人がどういう状況にあるかが重視されます。ですから、急ぎの人には横入りしてもいいか聞くことを聞く権利があるし、聞かれた人は、別に自分は急ぎではないからいいか、となるのです³。また、交通ルールについても、日本とは違う感覚があります。日本では、やはりルールを守ること自体が重要であり、車が来なくても赤信号では止まらなければなりません。一方で、中国の交通ルールはあってないようなもの。信号が赤でも人は車の間を縫うようにして道を渡ります。そして、不思議なことに案外車に轢かれないのです。道を渡る人と車の運転手との間に暗黙の了解があり、人は普通のスピードで歩いても、轢かれません（逆に、走ったりするとその均衡が破られて轢かれます）。中国人は、究極的に言えば「事故を起こさないことがルール」といったような帰結主義であると言えるでしょう⁴。

このように、確かに日本人のものさしで見ると、中国人は必ずしもマナーが悪いとは言えないのではないかと思います。もちろん、日本に観光に来る中国人は、日本のマナーを理解し、それに則るべきです。しかし、彼らと私たちの「マナー」の概念は異なっている、ということを忘れてはならないのです。

Ⅲ. これからの中国との関わり方

（１）色眼鏡は捨てよう

³ 日経ビジネス ONLINE 『列に割り込む中国人は、怒られたらどうするか？ 「大陸的」という言葉のネガとポジ』 <
<https://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/16/041100064/052100004/>>
アクセス日：2018年9月1日。

⁴ 橋爪大三郎、大澤真幸、宮台真司『おどろきの中国』講談社、2013年。

私が中国に行くと言ったとき、周りの人からいろんな反応がありました。私の留学先が中国だと知ると、たいていの友人は「面白そう」と言ってくれましたが、両親からは「なんで中国なの？アメリカやイギリスじゃないの？」そして祖父母からは、「中国！？そんな国行くものではない」などと言われたりしました。この日中関係が芳しくない時代に中国に来て、中国人からどのような反応が来るかと思っていましたが、実際は「意外と普通」でした。特に私が大学で生活するので、普段接するのが若い世代だから、というせいもあると思います。「タクシーの運転手が、自分が日本人だと話すと嫌な態度をとってきて、不快な思いをした」と言っていた日本人留学生もいましたが、私はこの1年間で、日本人だからこそ受けた嫌な態度などに遭遇したことはありませんでした。中国と日本は、戦争をした歴史もあるし、現在も政治的にあまり関係が良くないのは事実です。また、日本で見る中国は、ほとんどメディアからのもの。テレビを見ていれば、自然と「中国人って、日本人のことが嫌いそう」「中国人って、マナーも悪そうだし、なんか理解できなそう」と感じるかもしれません。でも、メディアが発信する中国は、あくまでも一側面にすぎません。そのイメージを一度取り払ってみてほしいのです。「中国人」としてではなく、「一人の人」として、見てほしいのです。そしてこれは、中国人に限らず全ての国に共通することだと私は考えています。グローバル化が進む現代において、「国」を意識しすぎないことも、私は重要だと思います。

（２）草の根の関係

中国にいる間、私にはたくさんの中国人の友達ができました。中でも、特に仲の良かった日本語学科の友人とは、毎週のように会っては、食堂で一緒に勉強し、互いの国の言語や文化を教え合ったり、たわいない会話で盛り上がり、色んなところに連れて行ってもらったりしました。そういった中で、私は、政治や歴史の問題を超えて、中国人とも親密な関係が作れるということを知りました。

ここで、埼玉県川口市での取り組みを紹介します。川口市は、全国でも有数の中国人人口の多い都市で、現在も年々中国人住民が増加しています。ある団地では、中国人住民がごみや騒音のトラブルで、日本人住民と対立していました。そこで、自治体は「国際交流員」を置いて、中国語で中国人住民の相談にいつでも乗れるようにしました。また、定期的に多文化交流イベントを開き、

日本人住民と中国人住民が交流できる場を設けました⁵。このような取り組みは、今後グローバル化が進んで中国人と関わる機会がますます増えるであろう日本人にとって、良いロールモデルとなってくれるでしょう。言語も文化も違うもの同士、特に日中関係においては、政治や歴史的な問題もあります。しかし、互いが歩み寄る姿勢を見せ、実際に仲良くなるために努力をすれば、私たちは本当に良い関係を築けると思うのです。このように、「隣の中国人」を理解することが、いつかはもっと大きなレベルでの日中関係に必ず良い影響をもたらすでしょう。

IV. まとめ

このレポートを書きながら、私の頭の中を中国で出会った人々の顔、懐かしい匂いと風景、思い出の数々が走馬灯のように駆け巡っていきました。別れの時にもらった手紙や写真を眺めながら、この1年が自分にとってどれだけ大切か、改めて思い知りました。

不安と期待を抱きながら留学の地に初めて降り立った時は想像もしないくらい、私にはたくさんの大切な人、忘れられない場所ができました。「真澄、ずっと忘れないよ」そう言って送り出してくれたあのシーンを思い出すと、今も胸が苦しくなります。だけど、海を越えて遠く離れた地で今も頑張っている友人たちを思うと、自分も負けてはいられないと奮い立たせられるのです。そして、いつかまたあの場所へ行きたい、という気持ちが、私の大きなモチベーションとなっています。もっと勉強して、もっと立派な人間になって、帰ってくるぞと。

この1年間で、本当にたくさんの中国人に助けられ、大きな学びを得ました。彼らには感謝してもしきれません。だから、私は日本の人々と中国の人々がもっともっと互いを理解し合い、よりよい関係になることを願わずにはいられないのです。

最後に、私に素晴らしいチャンスをくださった埼玉県の皆様、留学中、私のことをサポートしてくれた中国の先生、友人、留学を最後まで応援してくれた日本の先生、友人、両親、そして私のレポートを読んでもくださった皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。私のレポートが埼玉県と山西省の交流事業並びに今後の日中関係がより良いものとなるのに少しでも役立てば

⁵ NIKKEI STILE『池袋・川口…ミニ中華街が続々 共生の一步は太極拳? 中国からの移住者住みつく、店舗も集積』<
<https://style.nikkei.com/article/DGXMZ032916720S8A710C1905E01?channel=DF220420167266&style=1&page=2>>アクセス日：2018年9月1日。

と思います。そして、このかけがえのない出会いと経験を糧にして、私はこれからも前に進みたいと思います。

<参考文献>

橋爪大三郎、大澤真幸、宮台真司『おどろきの中国』講談社、2013年。

<参考 URL>

東洋経済 ONLINE『中国人が逃げられない、「戸籍格差」の現実 これが「努力しても報われない」の実態だ』<<https://toyokeizai.net/articles/-/70555?page=3>>
>アクセス日：2018年9月1日。

Freedom House『Freedom on the Net 2017 Manipulating Social Media to Undermine Democracy』<
<https://freedomhouse.org/report/freedom-net/freedom-net-2017>>アクセス
日：2018年9月1日。

日経ビジネス ONLINE『列に割り込む中国人は、怒られたらどうするか？
「大陸的」という言葉のネガとポジ』<
<https://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/16/041100064/052100004/>>
>アクセス日：2018年9月1日。

NIKKEI STYLE『池袋・川口…ミニ中華街が続々 共生の一步は太極拳？ 中国からの移住者住みつく、店舗も集積』<
<https://style.nikkei.com/article/DGXMZ032916720S8A710C1905E01?channel=DF220420167266&style=1&page=2>>アクセス日：2018年9月1日。